
野良猫又な日々

龍川歌風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

野良猫又な日々

【Nコード】

N2838D

【作者名】

龍川歌風

【あらすじ】

普段どおり町を歩いていると、尻尾が二又に分かれ、人の言葉を話す猫に出会った”あなた”。「おやお前さん、この二又の尻尾が見えるのかね？まあとにかく、ちいとばかりこの老いぼれの昔話を聞いていかんかね？なに、取って食いやせんよ……」

おやお前さん、この二又のしつぽが見えるのかね？普通のもんには見えんようになったるんじゃないが……。

まあとにかく、久しぶりに人の言葉で話せる相手に出会ったんじゃない。ちいとばかりこの老いぼれの昔話を聞いて行かんかね？なに、取って食いやせんよ……。

わしはかれこれ十五年……いや、二十年くらいだったかの？この街で野良猫をやっておる。まだ人の手の平に乗れるほどチビだった頃、人間に捨てられたんじゃない。

いきなり親元から引き離され、わしは途方に暮れておった。すると通りすがりのよく肥えた黒猫が、わしに話し掛けてきおった。

なかなか迫力のあるオス猫でな、目が合った途端、わしはピーピーと泣きだしてしまったよ。

そんなわしにそやつは少々困った顔をしていたものの、わしが泣き止むのをただじっと待っていてくれた。そしてできるだけ優しい口調で言った。

「お前、捨て猫か。かわいそうにな。人間というのはひどいことをするもんだ……。だがお前はこれから、その人間共に媚びて生きていかなければならないんだ。俺がその方法を教えてやる。ついてこい」

そして奴は野良としての生き方について、わしに様々なことを教えてくれた。

ゴミのあさり方。

餌をくれそうな人間を見分けるコツ。

文字通りの猫なで声の出し方。

駅前にはコンビニが多いから、どうせ住むなら駅周辺がいい――
――

など、ほんにたくさんのことを教えてくれた。

奴がいなかったら、おそらくわしは今、ここにはおらんかったことだろうよ……。

ちなみに後で知ったことなんじゃが、奴は当時、あの辺りを仕切る縄張りのボスだったそうじゃ。

そしてそのままわしは、奴の右腕として働くこととなった。

そうそう、奴の名前は「マクロ」といつてな、近所のジヨシコウセイとかいう人種が勝手にそう名付けたらしい。

もちろん奴の全身が真っ黒だから、ということもある。じゃがそれだけではない。

「マクロ」とは遠い海の向こうの言葉で、「大きい」という意味があるそうなんじゃ。

身も心もでかいあやつに、まさにぴったりの名じゃと思ったよ。

そうやって時に厳しく、時に気楽な野良猫生活を送っていたとある日、実に奇妙な事が起こった。

尻尾がなんだかむず痒いのだ。しかもどういわけか小刻みにブルブルと震えている。

これはどうしたことかと思議に思っていると、不意にピヨコン、と尻尾が二つに分かれた。

別にビリビリと真っ二つに引き裂かれたわけではない。一つだった尻尾が根元付近から二つになった、ただそれだけのことだ。

じゃがわしは新手の病^{やまい}かもと不安になり、マクロに聞いてみた。すると奴はハハハ、と笑いながら言いおった。

「こいつはめでたい。お前もついに『猫又』となつたか」

わしは『猫又』とは何かと尋ねた。

「野良猫は十年以上生きると、『猫又』という化け物になるのだ。猫というのは皆、魔物になる可能性を持って生まれてくる。しかし真に魔物になるには大地の力——つまり野性の力が必要だ。ゆえに十年以上生きて大地の力を十分に手に入れた野良猫だけが、二又の尻尾を持つ化け物と化すのだ。ちなみに飼い猫はダメだ。大地の力が足りないから、猫又にはなれない。だがたまに飼い猫にも関わらず、猫又になってしまう者もいる。そういう奴はある日突然、飼い主の前から姿を消す。何十年も生きる猫など、気味悪がられるからな」

そしてこうも言っておった。

「つまりだ。人間どもは『猫は自分の死期が近づくと姿を隠す』、などと思っているようだが、それは全くのでたらめだ。彼らは死ぬために去って行くわけではない、新たに生まれ変わるために旅立って行くのだ……」

と——…。

そういえば、お前さんたち人間の言葉に『犬は人に付き、猫は家に付く』というものがあるようじゃが、決してそのようなことはないぞ。

あれは単に、餌となるネズミがいるから家を離れないだけであって、十分な餌と愛情を与えてやりさえすれば、猫とて家よりも主人を選ぶに決まっている。

——と、なんだか話がそれってしまったな。話を元に戻そう。

猫又となった猫は、様々な能力を身につける。先ほども言つたが、この二又の尻尾は普通の猫や人間には見えん。一本に見えているはずじゃ。しかしお前さんのような霊力の強い者や、猫又同士ではこ

の術は効かない。

そしてもう察しはついていると思うが、マクロもまた猫又じゃ。奴はずいぶんと昔に猫又になったようだな、術を使うのがものすごくうまい。

おそらくお前さんでも奴の術を見破ることは不可能じゃろうて。

他の能力としては、このように人の言葉を話せるようになる、というものもあるの。

もちろん自分の知っている言葉のみだが、どうやら猫又になるとえらく頭が冴えるらしくての、知識がすいすいと頭の中に入っていたよ。

……じゃが当時わしに餌をくれていたのは近所の老夫婦でな、彼らの言葉を聴いて覚えたせいか、周りの者いわく「口調がジジくさい」とのことじゃ。

うつむ、人の言葉とは難しいもんじゃの……。

さらに時は流れ、再び事件は起きた。つい数年前のことじゃ。

なんとあのマクロが、わしにこの町を任せて出て行ってしまったんじゃ。

「お前は野良猫としても猫又としても、ずいぶんと立派になった。そろそろこの町のボスの座を譲ってもいいだろ。俺はこれから隣町に行く」

マクロの縄張りはとても広く、隣町にまで及んでいた。ゆえに今までよく働いてきた褒美として、その半分をわしにくれてやると言ってきたのじゃ。

しかしわしは知っておった。ちょうどその頃、よくマクロに餌をくれていた、とあるばあさんの夫が亡くなったということ。

子供もすでに自立してしまっていてな、楽しみといったら近所の

野良猫の世話をするくらいのものだったそうじゃ。

だからこそ、マクローはそのばあさんの元へ行ったんじゃ。せめて彼女が夫と同じ場所へ逝くその時まで、そばにいてやろう……とな。

とまあ、少々辛気臭くなっちゃったが、こうしてわしはこの町のボスとなったんじゃ。

この町はいいぞ。実に平和じゃ。

じゃがお前さんたち人間は、そうは思っておらんのじゃろう？よくはわからんが、色々物騒だそうじゃないか。

特に最近「チキウオンドンカ」とかいふもので騒いでいる連中が多いな。何やら「島が沈む」だの「台風が大型化する」だのと騒いでいるようだが、わしら猫にはさっぱりわからん。

とりあえず暖かい日が多くなる、ということだけはわかる。じゃがそれでなぜそのようなことが起こるのか、てんで見当が付かぬ。わしら野良猫にとってはせいぜい『冬が過ぎやすくいいにやあ』くらいにしか感じんのじゃが……。

ああ、じゃが夏は暑くてかなわんな。特にのどが渴いて仕方がない。

餌をくれる人間というのはけっこういるもんなんじゃが、水をくれる者はほとんどおらん。ゆえにわしらは植木にまかれた水くらいしか飲む物がない。

まったくもって難儀なことじゃ。

—— おっと、もうこんな時間か。そろそろ竹田のころの奥さんが、餌をやりに来てくれる頃じゃな。

ではわしはこれで失礼するよ、聞いてくれてありがとくな。

……む？わしの名か？おお、これは失礼した、まだ名を名乗

っておらんかったな。

わしの名はハイロ。マクロが付けてくれた名じゃ。

理由は二つ。

一つは単純、わしの背中^{マクロ}の毛が灰色を帯びているからじゃ。

そしてもう一つは……真黒^{マクロ}のとなりの存在だからじゃ。

ああそうそう、最後に一つだけ。

猫又というのはな、二又の尻尾を隠したり人の言葉を操るだけでなく、人間に化けることもできるんじゃ。

案外お主の近くにもいるやもしれんぞ？お主が気づかぬだけでな・
・・・。

ではまたの。

にゃ〜ごお〜・・・。

（後書き）

お読み下さりありがとうございました。

この話は駅前に住む野良猫を見ながら作ったものなので、実際の猫又伝承とはだいぶ違うところがあると思います。その辺りは目を瞑っていたいただけると嬉しいです。

感想などいただけると嬉しいです。それでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2838d/>

野良猫又な日々

2010年10月15日23時08分発行